

名城大学 環境報告書

2 0 1 2 V e r . 2

MEIJO UNIVERSITY ENVIRONMENTAL REPORT 2012



目次

大学案内

- 1 目次・編集方針
- 2 学長メッセージ
- 3 理念
- 4 組織機構図
- 5 キャンパス紹介

環境・社会活動

- 19 環境教育
- 22 環境に関する研究
- 23 環境活動
- 26 社会貢献活動
- 28 労働安全衛生の取り組み

環境マネジメントシステム

- 7 名城大学環境方針
- 8 環境マネジメントシステム組織図
- 9 ISO14001登録状況及び環境監査
- 10 マテリアルバランス
- 11 目的目標と達成状況
- 13 省エネルギーの推進
- 15 省資源の推進
- 16 廃棄物の適正管理
- 17 化学物質の適正管理
- 18 法令順守・グリーン購入

- 29 編集後記
- 30 ガイドライン対照表

編集方針

本報告書「名城大学環境報告書2012 Ver.2」は2012年4月に発行した「名城大学環境報告書2012」に対する追補版として下記の対象期間(2011年度中)に活動した内容を報告します。

これまで名城大学の「環境報告書」は、「環境ガイド」という名称で、新しく入学された学生や教職員に対し名城大学における環境ルールを伝える教育資料を主目的とし、4月に発行してきました。しかし、環境配慮促進法の制定、環境配慮に対する社会からの要請の高まりなどを機に内容を見直し、次回以降は9月を目標に発行をしていきたいと考えています。

本報告書は環境教育資料の一環でありながら、本学学生、教職員、近隣地域住民の皆様及び本学への進学を希望される皆様にむけた、「環境・安全・防火防災」の内容を盛り込んだ社会的説明責任に果たすべく書物として編集していきたいと考えています。

報告対象期間:2011年(平成23年)4月～2012年(平成24年)3月

報告対象組織:名城大学環境マネジメントシステム組織図に基づく学校法人名城大学全キャンパス

発行年月:2013年(平成25年)3月

公表方法:名城大学ホームページにて公表 URL: <http://www.meijo-u.ac.jp/kankyo/index.html>

参考にしたガイドライン:環境省「環境報告ガイドライン 2012年版」

学長メッセージ

みなさまのご協力を得ながら、 環境の課題に 地道に取り組んで参ります。

名城大学 学長
中根 敏晴



環境保全と汚染の防止への取り組みは、組織が活動する上での前提条件であり、社会的信用を醸成するための不可欠な要素の一つです。本学は大学という教育研究機関として、このことに主体的かつ積極的に取り組むことを社会的責任の一つとして位置付けています。そして、より効果的にこの責任を果たすために、法人、大学及び附属高等学校の組織を統括した環境マネジメントシステムを構築して来ました。平成14年6月には愛知県内の4年制大学で初めてISO14001の認証を取得し、以来、これまでに3回の更新審査を経て参りました。

教育研究活動における取り組みとして、本学は環境方針の中で「地球環境の保全と維持向上に係る教育研究活動の充実」、「持続的に発展可能な循環型社会の形成に寄与する人材の育成」に努めることを表明し、継続的な環境保全活動と環境教育に取り組んでいます。

特に、大学では「環境」をキーワードとした学科として、理工学部「環境創造学科」を、農学部「生物環境科学科」を設置し、21世紀が指向する循環型社会の形成と推進に向けて、理想的な環境を創造することができる人材の育成を行なっています。

本学は教育研究活動を行うため、多量のエネルギーを始め、水や紙、ならびに多種多様な化学物質を使用するところから、キャンパス内で多量の廃棄物の排出を余儀なくされています。これらについて、法的義務や自主的な目標設定により削減や適正な処理に取り組んでいます。また、CO₂の削減対策として、冷暖房設備の電気へのエネルギー転換、ソーラーパネルの導入による再生可能エネルギーの使用、共通講義棟へのクールビットの設置等により、冷暖房エネルギーの節減に努めています。

実践的な教育としては、空き教室の消灯や冷暖房の停止、ご

みの放置状況の調査を行う環境パトロールや環境をテーマとした講演、シンポジウム等を行う「ISOフォーラム」を継続して実施しています。

また、学生の自発的な環境活動として、天白キャンパスにおいて学生団体のボランティア協議会が中心となり、近隣地域の清掃活動を行なっています。この取り組みは、天白キャンパスのみならず、他のキャンパスにおいても学生団体が主体となった活動の輪として広がっています。そして、これらの活動と省エネへの取り組みが評価され、大変喜ばしいことに平成24年2月に名古屋市「なごや環境活動賞」の優秀賞を受賞いたしました。

さらに、平成23年度は、中部電力浜岡原子力発電所の全面停止に伴う電力不足に対応するため「節電対策本部」を設置し、附属高等学校を含む全キャンパスで、瞬間最大電力を抑制するため、ガスコージェネレーションの運転、電気ヒートポンプチャラーの運転見直し、エスカレーターの運転停止等行いました。その結果、冷房期間(6月～9月)において、平成22年度と比較し、各キャンパスの最大電力を8%以上抑制し、使用量についても10%近く削減することができました。

こうした種々の取り組みや成果がありますが、未だ環境に関する取り組むべき課題も残っています。最大の課題は、省エネ法における特定事業者としてのCO₂削減義務への対応です。また、年間の廃棄物の排出量や紙の使用量は横ばい状態であり、キャンパス再開発計画の推進による施設の拡充に伴うエネルギー使用量の増加が見込まれます。教育研究と大学経営とのバランスをとりながら、教職員、学生、ステークホルダーの理解と協力を得ながら、これらの課題に対して地道に取り組んで参ります。本報告書に関して、皆様からの忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

理念

【立学の精神】

穏健中正で実行力に富み、
国家、社会の信頼に値する人材を育成する。

立学の精神、そのなかに含まれる4文字、「穏」「健」「中」「正」、この4文字の意味するところを身につけることができれば、広く社会の人々から信頼をうけることができるのではないか、そして、この4文字の意味を体して、力強く、実践を積み重ねるとき、きっと個人の生涯は大きくその門を開くのではないだろうか。

平和であたたかく、
穏やかであること。

穏

秩序と調和と確実さをもって、
支障なく、力強く前進すること。

健

謙虚にものごとの核心をつかみ、
包容力ある立場にあること。

中

ものごとに、折り目、けじめをつけ、
順逆をわきまえて筋を通すこと。

正

立学の精神の実現化に向け、
3つのキーワードをかけた、
総合大学としての理想を追求します。

総合化の推進

文系・理系学部がバランスよく設置されている「総合大学」の特色をさらに生かすため、学部の枠を超えて柔軟に学ぶことができる「他学部履修制度」などを実施。社会の諸問題に柔軟かつ総合的に対応できる人材の育成に努めます。

高度化の推進

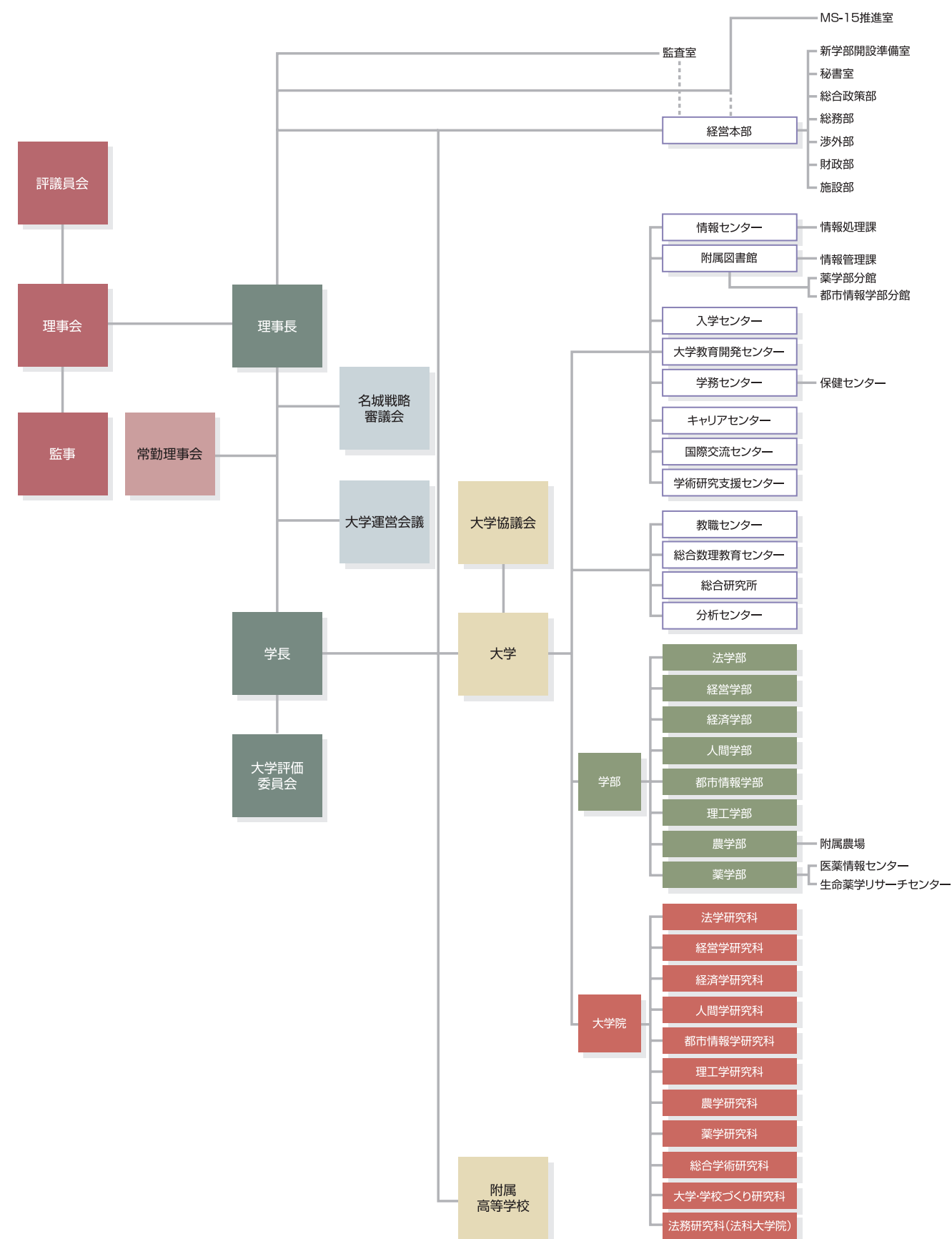
大学院と各学部・学科、さらに総合研究所が一体となって研究活動の高度化を追求。その成果を積極的に社会へ還元していきます。

国際化の推進

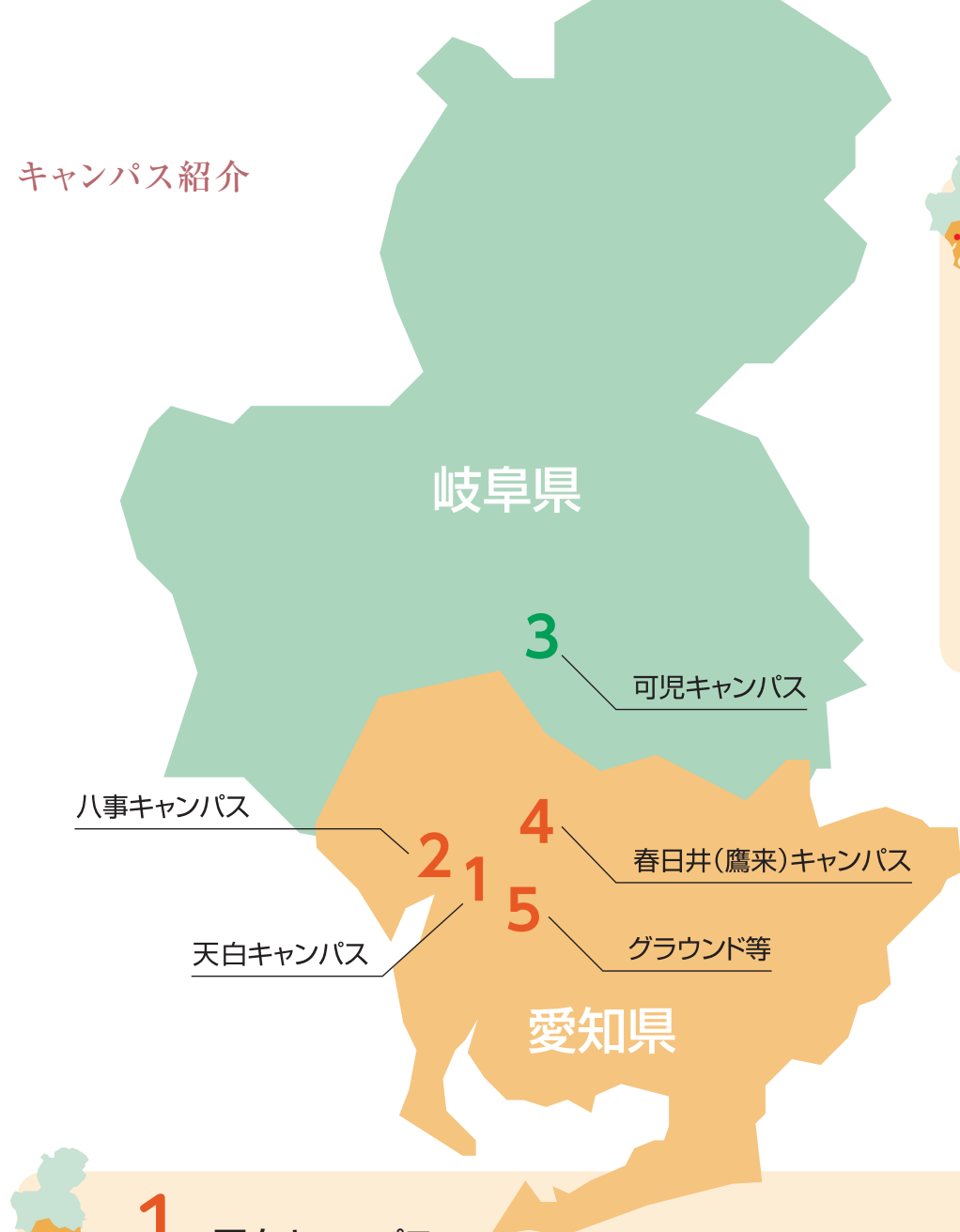
留学生の受け入れや外国人研究員の招聘、外国の大学・研究機関との学術提携などを通じて、国際交流をさらに活発に進めていく方針。国際化の時代の流れを的確にとらえて教育の場に反映させていきます。

組織機構図

平成24年8月1日現在



キャンパス紹介



2 八事 キャンパス

高度な教育・
研究施設が揃う
キャンパスで、
薬学部の学生が
学びます。



丘の上のキャンパスは東海地方で最も伝統のある私大薬学部。
半世紀を超える伝統と実績を活かし、薬学教育の理想を追求。
薬学部の充実と薬学部6年制に対応するため、最新の教育・研
究施設を完備した「八事新2号館」が平成24年10月に竣工。

薬学部 薬学研究科

〒468-8503 名古屋市天白区八事山150 TEL 052-832-1151(代)
地下鉄鶴舞線・名城線 「八事」駅下車、6番出口徒歩約6分

校地現有面積	17,553㎡
校舎等現有面積	31,221㎡
学生数(大学院生含)	1,552名(2012.5.1現在)
教職員数	79名(2012.5.1現在)

3 可児 キャンパス

キャンパスのシンボル
「虹のモニュメント」が
煌めく先進の
IT環境が整った
自然豊かなキャンパス。



都市と自然が調和するITを網羅した環境。
都市と情報をテーマに、文理融合を追求する。

都市情報学部 都市情報学研究科

〒509-0261 岐阜県可児市虹ヶ丘4-3-3
TEL 0574-69-0100(代)

名鉄広見線「西可児」駅下車、徒歩約15分
(名鉄「犬山」駅から通学バスで15分、
「西可児」駅から通学バスで5分)

校地現有面積	148,782㎡
校舎等現有面積	12,810㎡
学生数(大学院生含)	906名(2012.5.1現在)
教職員数	38名(2012.5.1現在)

4 春日井(鷹来)キャンパス (農学部附属農場)

13ヘクタールの広大な敷地に広がる果樹・
野菜・花卉や樹林、畜舎など、農学部実習農場や
研究農場として使用されています。自然豊か
なキャンパス。



〒486-0804
春日井市鷹来町字菱ヶ池
4311-2
TEL 0568-81-2169

校地現有面積	136,860㎡
校舎等現有面積	5,468㎡

5 グラウンド等 (日進総合グラウンド 第1・第2グラウンド)

多目的グラウンドを囲むように野球場
屋外プール、テニスコートなどの
各種競技施設が充実。



〒470-0102 日進市藤島町長塚75
TEL 0561-73-0810

校地現有面積	152,553㎡
校舎等現有面積	4,598㎡

1 天白キャンパス

名城大学のランドマーク「タワー75」を中心に
6学部の施設・設備が並ぶメインキャンパス。



〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501
TEL 052-832-1151(代)

地下鉄鶴舞線
「塩釜口／名城大学前」駅下車、1番出口徒歩約8分

大学のシンボル「タワー75」や「共通講義棟(南)」
「共通講義棟北」「研究実験棟I」などには、充実の
最新教育機器を完備している。そして、最新鋭の研究
拠点「研究実験棟II」が平成25年3月に竣工。

法学部 経営学部 経済学部 人間学部 理工学部 農学部

法学研究科 経営学研究科 経済学研究科 人間学研究科
理工学研究科 農学研究科 総合学術研究科 大学・学校づくり研究科
法務研究科(法科大学院)

校地現有面積	124,352㎡
校舎等現有面積	148,233㎡
学生数(大学院生含)	13,333名(2012.5.1現在)
教職員数	645名(2012.5.1現在)



名城大学環境方針

環境理念

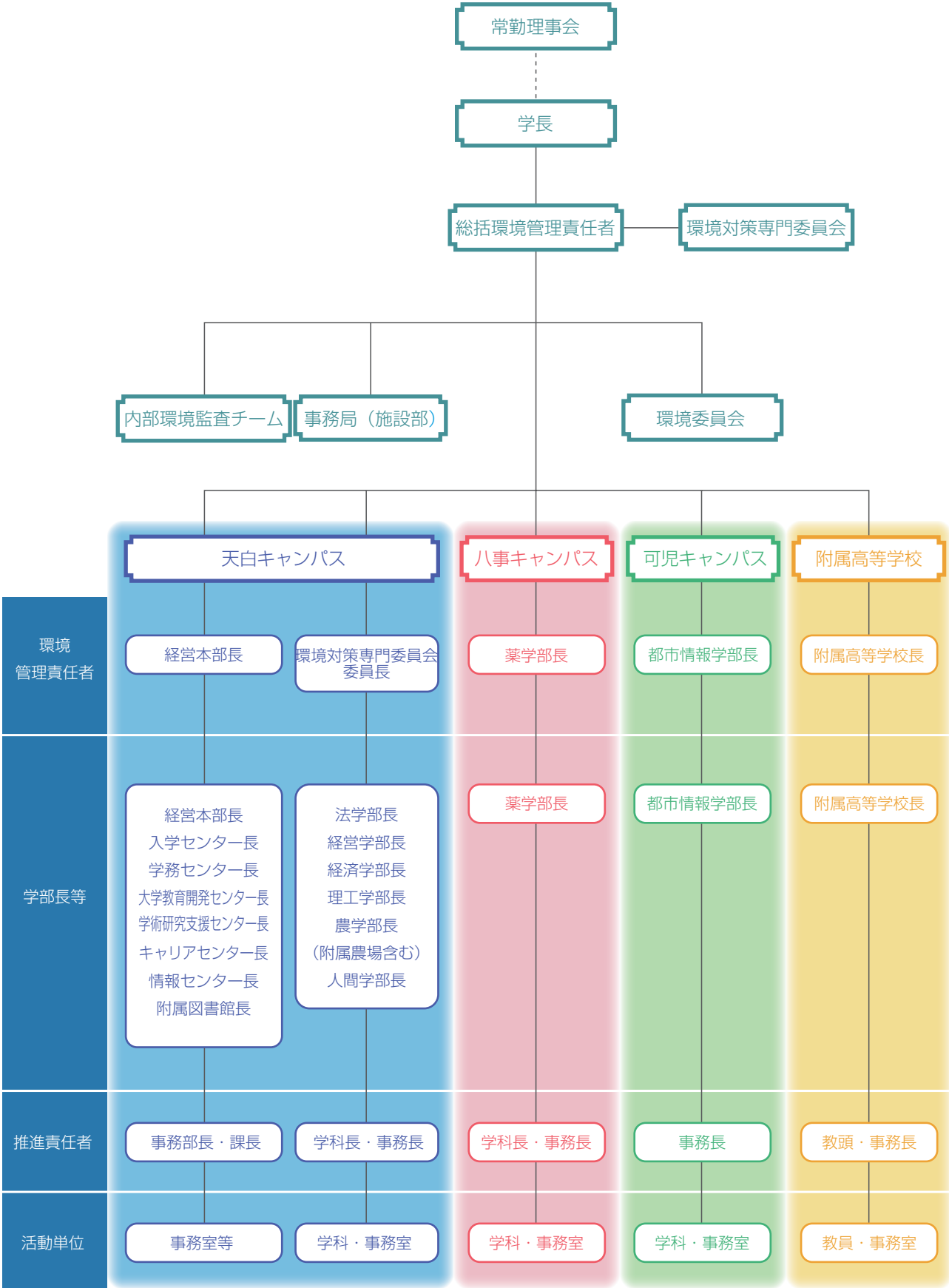
名城大学及び名城大学附属高等学校は、情報化、高度化、国際化する社会の要請と、「環境の21世紀」に応えられる教育研究を推進し、持続的に発展可能な循環型社会の形成に寄与する人材の育成に努めます。

環境方針

- ①地球環境の保全と維持向上に係る教育研究活動を充実し、環境を視野に入れた人材を育成します。
- ②環境に係る公開講座などの開催や研究成果の公開を推進し、環境保全に貢献します。
- ③省資源、省エネルギー、グリーン購入の推進及び廃棄物の減量と適正管理に努め、環境負荷の低減に取り組めます。
- ④教育研究をはじめ、総ての活動において、環境関連法規制、協定等を順守し、汚染の予防に努めます。
- ⑤内部環境監査を実施し、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
- ⑥環境方針を達成するため、環境目的、目標を設定し、定期的に見直します。
- ⑦環境方針は、インターネットホームページで公開します。

平成23年4月1日 名城大学学長 中根 敏晴

環境マネジメントシステム組織図





ISO14001 認証登録状況及び環境監査

ISO14001 認証登録状況

本学はISO14001 認証登録後9年目を迎え、第3回目の外部審査機関による更新審査が5月9日(月)、10日(火)に実施されました。審査チームから優れた点として以下の総評等を頂きました。

- ①学内の飲食店の廃棄方法を名城大学の要求に即して、分別の徹底が出来ており、契約上、環境配慮事項を明確に指示していること。
- ②情報センターでは、学生1人当たりプリント数500枚を達成し、さらに1教室プリンタを2台から1台へ削減することで、機器の削減化等、ダイナミックな活動をしていること。
- ③都市情報学部ではフレッシューズセミナーの一環として、防災訓練を実施し、194名の新生生に対して、避難ルート、消火器の取扱い等、確実に伝達する仕組みを確立し、実行していたこと。
- ④各部門とも積極的なEMS活動を展開していること。

この結果、全サブサイトにおいて更新決定がされました。これにより、新たに登録証が発行され、認証期限が2011年6月12日から2014年6月12日へ変更となりました。引き続き、環境教育の推進、環境負荷の低減を図っていきます。



審査の様子



ISO14001 の新登録証

内部環境監査

大学院生及び教職員約85人が内部監査員となり、11月7日～17日に19部署の全活動単位を対象に内部監査を実施しました。

今回の監査目的は「EMSの有効性の評価」「法令順守状況の評価」としました。

その結果、5部署で7件の指摘事項があり、全体で12件の優良事項がありました。

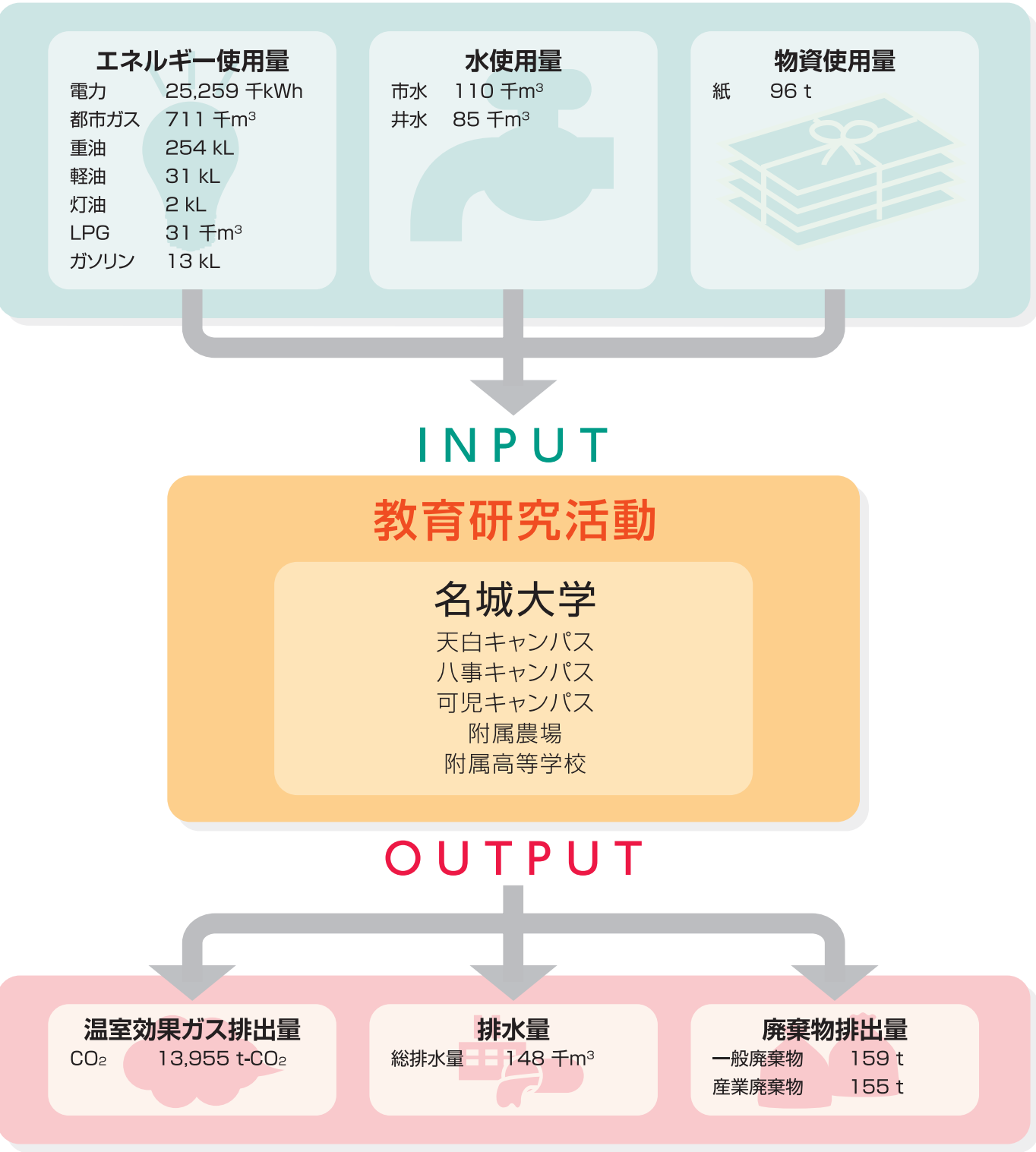
「EMSの有効性の評価」において、優良事項件数の増加など、前年度と比較して一定の有効性が確認されました。一方で、「産業廃棄物保管場の表示看板が法令に基づくものと異なるものが設置されていた」という指摘もあり、「法令順守状況」において未だ不十分であることがわかりました。



内部監査の様子

マテリアルバランス

名城大学では、各キャンパスで使用・排出されるエネルギー、資源及び廃棄物などについてデータを集計し、環境負荷低減に努めています。2011年度の教育研究活動に伴って生じた環境負荷の状況は次の通りです。





目的目標と達成状況

名城大学では、環境方針に従って設定した環境目的・環境目標を達成するために、実施計画を策定しています。
2011年度の主な取り組みと結果は下表の通りです。

目的	目標	目標値	主な取り組み・結果	学部等
環境に係わる教育活動の推進	環境関連科目の継続的開講	開講率 100%	年間 41 科目の開講：開講率 100%	理工学部
			年間 6 科目の開講：開講率 100%	経営学部
			年間 6 科目の開講：開講率 100%	経済学部
	環境に関連する書籍の利用頻度の向上	前年度以上の利用	貸出総数 882 冊（前年度 943 冊）：61 冊減	附属図書館
	実験実習科目における環境保全指導	実施率 100%	実験実習手引書による指導、卒業研究等での環境指導の実施、実験廃液の処理方法と安全教育の実施：実施率 100%	理工学部
	授業以外の環境教育の実施	年 1 回以上の実施	Working Bee（清掃活動）：400 名を超える参加。 田植祭：260 名、収穫祭：280 名の参加。	農学部
	学生・生徒が行う環境行事への支援	クリーンアップ大作戦への参加	年間 17 回参加。（毎回 4 ～ 5 名参加）	経営本部
	大学祭説明会での環境関連事項の説明	説明会及び反省会の開催	大学祭実行委員会の環境局が中心となり、9 種類の分別を徹底させ、ゴミの回収リサイクルを実施した。	学務センター
環境フォーラムへの参加	環境フォーラムへの積極参加の呼びかけ及び掲示での周知	教授会で全教員に案内を行った。学生には、講義科目「都市情報学概論Ⅱ」で案内を行った。	都市情報学部	
環境に係わる研究活動の推進及び研究成果の公開	公開講座開講	年 2 回以上の実施	年間 8 回実施	理工学部
			年間 4 回実施	農学部
			年間 2 回実施	都市情報学部
	学外公開講演会・出前講義講師派遣状況の記録	記録 100%	「2012 愛知環境賞」選考委員会委員の派遣	人間学部
			高大連携講座への講師派遣	理工学部
			春日井市民講座等への講師派遣	農学部
	公開講演会等の積極的開催	外部向け環境ホームページのリニューアル	新規に「MESAⅡ」（環境・安全衛生・防火防災）専用のホームページを公開し、各種情報の共有化を進めた。	経営本部
省資源の推進	実験薬品・材料の購入の適正化	保有薬品リストを継続作成	薬品リストを継続して作成し管理を行った。	附属高等学校
	コピー用紙の購入量の削減	前年度実績維持	会議資料のペーパレス化・電子媒体の使用など積極的に推進したものの、委員会設置による資料作成等で使用量が増加した。	学術研究支援センター
			事務職員による定期巡回の実施及び意識啓発活動の徹底を図った。 チェックシート、カードによる管理を行った：前年度比 12%減	情報センター 経済学部
			コピー用紙の裏面利用など紙資源削減を積極的に推進した：前年度比 15%減	入学センター
			前年度実績の 10%増（6 年制課程導入のため）	コピー用紙の裏面利用など紙資源削減を積極的に推進した：前年度比 13.3%増

目的	目標	目標値	主な取り組み・結果	学部等
省エネルギーの推進	電力量の削減	1%削減	室温管理及び昼休みや不在時の消灯の徹底：前年度比 2.3%減	理工学部
			室内設置の温度計による自己管理の徹底：前年度比 0.8%減	経済学部
	ガス使用量の削減	1%削減	OA 機器未使用時の電源 OFF 等のポスター掲示及び職場巡視：前年度比 12.9%減	情報センター
	CO2 削減	省エネルギー施設の導入	省エネ啓発についての掲示を実施：前年度比 20.4%減	都市情報学部
一般廃棄物の適正管理と減量	環境パトロールの実施	月一回の実施	私のごみの持ち帰りの徹底と館内巡回を定期的 to 実施。	附属図書館
		リサイクル率 100%維持	年間 5 回環境パトロールを実施。	理工学部
		年 3 回以上の実施	分別状況のチェックを実施し実施記録を作成。	大学教育開発センター
	分別の徹底とリサイクル化	リサイクル率 100%	可燃・不燃・紙類の分別徹底指示及び月 1 回のパトロールを実施。	法学部
産業廃棄物の適正管理と減量	廃棄物処理委託業者の適正管理	処理方法の視察	随時処理方法の視察を実施した。	経営本部
	PCB 含有使用済電気機器の適正管理	適正管理	適正に管理していることを確認した。	経営本部
再開発工事における環境影響の低減	騒音・振動、土壌調査等の環境問題発生 の低減及び発生時の適正処理	設計時における環境側面調査の実施	八事新 2 号館及び研究実験棟Ⅱについて調査を実施した結果、適正であった。	経営本部
		工事における環境側面調査の実施側面調査の実施	八事新 2 号館及び研究実験棟Ⅱについて調査を実施した結果、適正であった。	経営本部
法令順守	法改正による化学物質管理の見直し	保有薬品リスト作成。	管理リストの確認実施した。	理工学部
	必要な公的資格の取得推進及び法令・規制に基づき作業を行う	廃棄物及びエネルギー管理に関わる法的資格者の増員	環境マネジメントシステム審査員試験合格者：1 名	経営本部
	危険物貯蔵量の見直し	適正管理	関係教員と協議の上、各教員へ適正管理を依頼し、実現した。	薬学部



省エネルギーの推進

2011年度の取り組み

2011年度は、各エネルギーを前年度比1%削減することを目標に各学部が独自に目標を立てて取り組みました。その取り組みの中に、太陽光パネルの追加導入(10kWh)や共通講義棟北の屋上緑化、タワー75の藤棚の設置、省エネパトロールの実施、打ち水大作戦などがありました。

太陽光パネルを新たに設置したことにより、共通講義棟(南)で年間39,299kWh、共通講義棟北で年間12,877kWhの発電ができました。

また、中部電力管内における電力不足に貢献し、安定的な電力供給に寄与することを目的とする節電対策本部を立ち上げました。節電対策本部の構成員は、本部長を学長とし、11名の本部員から構成されています。2011年6月から2012年3月までに行った主な取り組みは以下の通りです。

- ・ガス発電機の終日運転
- ・ヒートポンプチャラーの運転見直し
- ・エスカレーターの終日停止
- ・研究実験機器等の電源オフ
- ・使用していない部屋の消灯・空調・換気オフを徹底
- ・空調の設定温度の見直し
- ・パソコンを節電モードにする
- ・自動販売機の間引き(5台撤去)
- ・照明機器の間引き
- ・クーリングタワーの省エネモード
- ・冷温水温度の省エネモード
- ・学内への省エネ放送
- ・空調期間の短縮
- ・ノー残業デイの導入
- ・コピーFAX複合機の省エネ設定
- ・未使用時の湯沸室の湯沸器・換気扇の停止
- ・2,3,4時限の終了30分前の空調停止
- ・ドラフトチャンバー使用時の開閉窓最小化の呼びかけ
- ・節電アイデアの呼びかけ



太陽光パネル

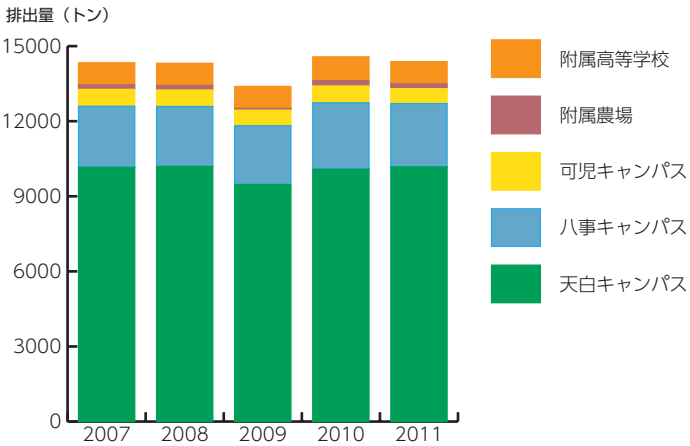


屋上緑化



藤棚の設置

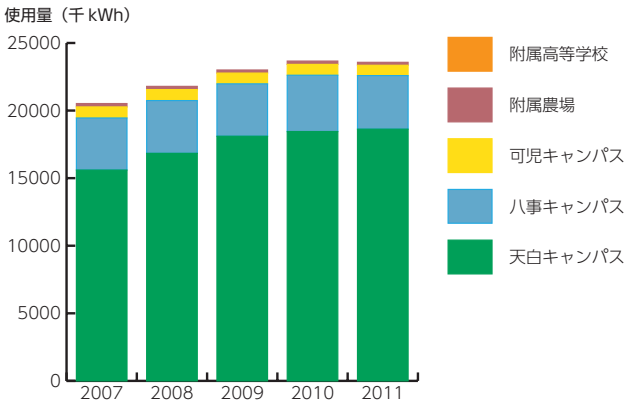
CO₂排出量



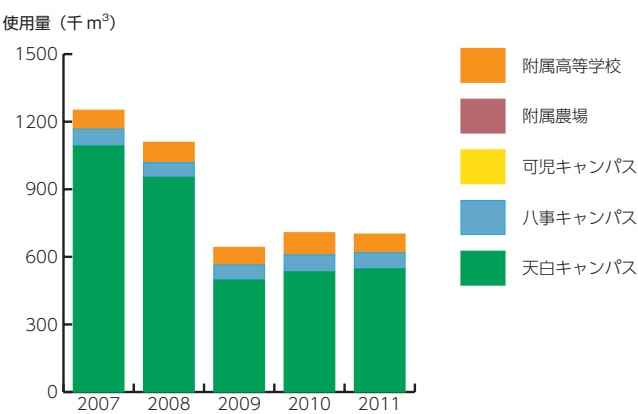
各エネルギー使用量

キャンパス毎の各エネルギー使用量は以下の通りです。

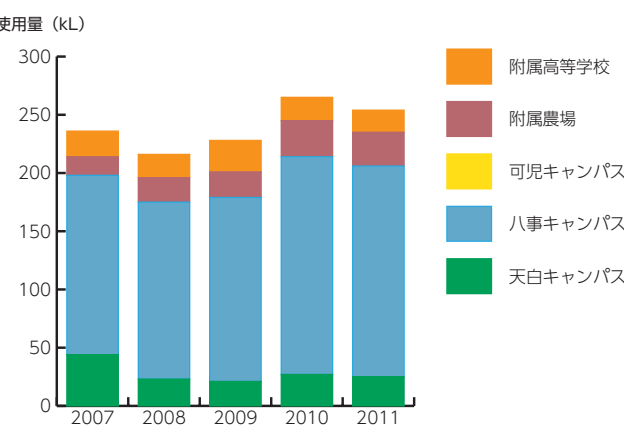
電気使用量



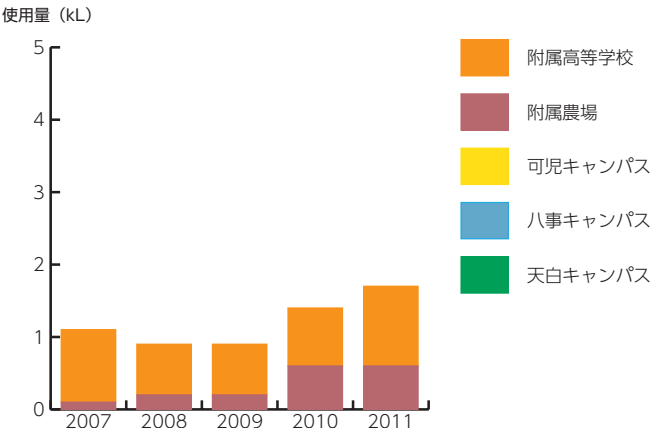
都市ガス使用量



重油使用量

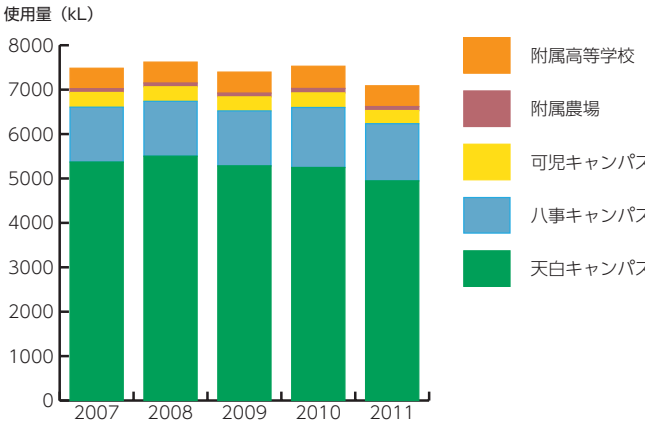


灯油使用量



総エネルギー使用量(原油換算)

メインキャンパスである天白キャンパスの総エネルギー使用量は、「科学技術創生館」の本格稼働に伴って約1%増加してしまいました。しかしながら、「科学技術創生館」を除いて昨年度と比較すると約5%の削減を図ることができました。その他、八事キャンパスでは約4%削減、可児キャンパスでは約11%削減、附属農場では約11%削減と大幅な削減が図れました。





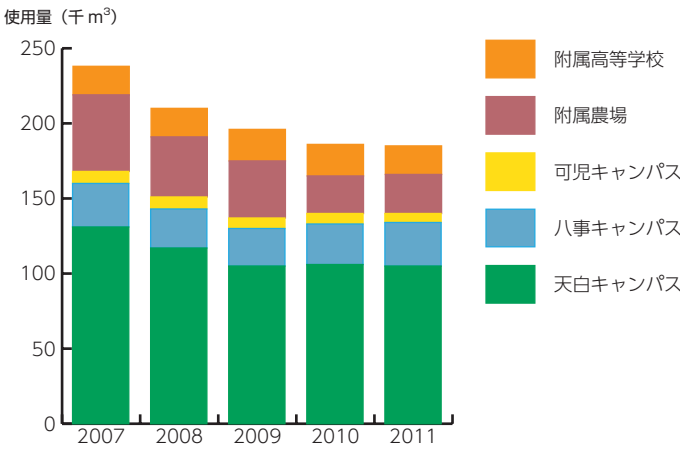
省資源の推進

水使用量

水の使用は、天候や気温など様々な要因によって使用量が増減しますが、概ね減少傾向にあります。漏水や蛇口の開けっぱなしなどを注意し、無駄な水を使用しないよう心がけています。また、本学では積極的に雨水を利用しています。天白キャンパスのタワー75では130㎡、八事キャンパスの新1号館では120㎡の雨水槽を地下に擁しています。2011年度は、天白キャンパスで891㎡、八事キャンパスで525㎡を濾過してトイレなどの水として使用し資源の有効利用を図りました。

また漏水などは、随時監視しており、節水コマも新しい建物に設置しています。

さらに附属農場は、井戸水を散水するなど水の再利用に積極的に取り組んでいます。



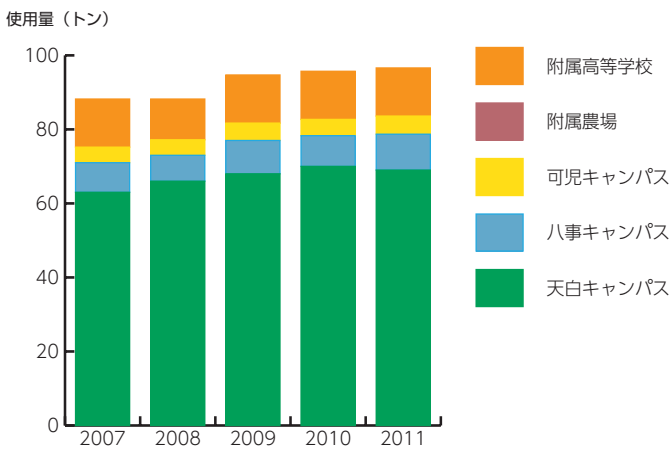
雨水ろ過装置

紙使用量

環境マネジメントプログラムで各学部等が以下の取り組みを行っています。

- ・紙使用時にチェックシートの利用(一部)
- ・2UPの促進(全学的)
- ・裏面利用の徹底(全学的)
- ・プリンタの廃止(一部)
- ・電子媒体の積極的利用の促進(全学的)

紙の使用量については、薬学部の6年制課程導入や、業務の多様化などを背景に増加傾向にあり、削減に対し苦慮しています。ただし、学内における裏面利用や2UPについては、内部監査時のチェック項目として挙げ、徹底を図っています。今後は、会議資料の電子化などを重点に取り組みを推進していきます。



廃棄物の適正管理

本学では、廃棄物削減に向けて、以下の取り組みを行っています。

- 1.古紙回収の実施**
天白キャンパスでは、古紙回収日を年間5日設けており、回収日は9:30～10:30の1時間に自部門における古紙を全教職員が一斉にグリーンバックと呼ばれる袋に投入します。回収日まで自部門で分別を徹底して保管しています。
- 2.大学祭前に実施する廃棄物説明会の実施**
廃棄物が大量に発生する大学祭前には、露天などを出す関係者を集め廃棄物の減量や分別方法などを指導しています。
- 3.廃棄物処分場視察**
産業廃棄物を含む廃棄物の処分場を定期的に視察しています。2011年度は機密文書の処分場を視察し、廃棄物が適正処分されていることを確認しました。
- 4.レジ袋の有料化**
名城大学生協では、レジ袋を有料化しています。
- 5.リリパックの導入**
リリパック弁当箱は、薄いフィルムが貼ってあり、それを剥がすことで、容器の再利用を図るものです。本学生協で販売しているお弁当に採用しています。



廃棄物説明会の様子



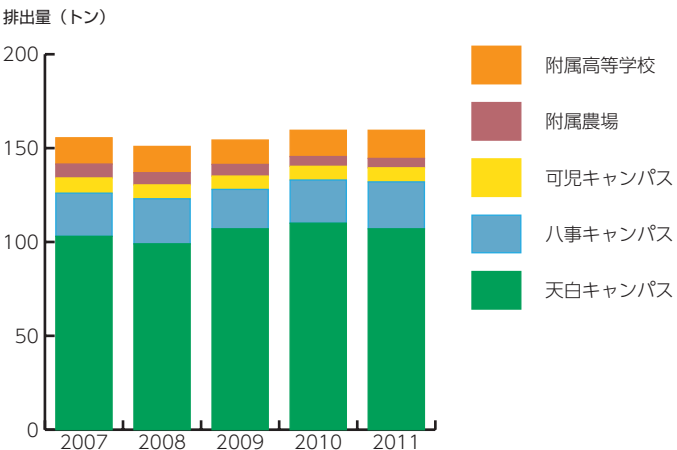
リリパック回収 BOX



分別 BOX



一般廃棄物排出量





化学物質の適正管理

2011年度の取り組み

化学物質を取り扱う上で、これならば絶対大丈夫というような安全策はありません。そこで決められた規則や手順を守ることが、対策の基本となります。大学の場合、他の業種と比べて「環境や人が短時間で変化や移動し易い」傾向にあることにも注意を払う必要があります。大学で発生する「危険の芽」は、一度摘んでも環境や人が変われば、再び同じものが現れてくるのです。どんなに対策を講じても、「危険の芽」がゼロになることはありません。そこで本学では、危険性・有害性を可能な限り小さくするための規則や手順が必要になってきます。ただし、決められた規則や手順が、いつでも正しいとは限りません。化学物質を取り扱う場合は、常に細心の注意が必要です。もしヒヤリ・ハットすることがあったら、躊躇せず一度立ち止まって本当に危険はないのか考えてください。間違いなくそこには「危険の芽」が隠れています。

そこで本学では、化学物質につきまとう「危険の芽」を摘むための道具となるように、以下の取り組みを進めています。

1.全学統一管理システム構築の検討開始

誰もが即座に必要とする化学物質の情報を、正しく知ることができ、簡単な操作で入庫・出庫操作ができ、さらに化学物質の保管状況などのデータが直ちに得られる管理システムを目指しています。これとあわせて、化学物質の購入から廃棄までの流れの一元管理も検討しています。

2.作業環境の調査

誰もが、常に健康かつ安全に作業できる快適な作業環境の維持と、よりよい作業環境を実現するための調査・検討を行っています。

3.安全衛生委員会(産業医と衛生管理者)による定期的な巡視

安全衛生の専門家の視点からの巡視を行い、化学物質の取り扱いについての不安全状態の発見だけでなく、作業者が見落としてしまいがちな化学物質の危険性・有害性を事前に察知し、作業者の安全・衛生を確保しています。

PRTR対象物質

本学では、PRTR制度で集計が義務付けられている化学物質462種類の移動量を集計しています。2009年度から2011年度における移動量の多いもの上位3種類は右表の通りです。

単位：kg			
物質名	2009 年度	2010 年度	2011 年度
アセトニトリル	441	299	140
クロロホルム	493	571	424
ジクロロメタン	276	111	107

PCBの管理

PCB特別措置法に基づき、密閉された保管庫において汚染物を防液堤内に収納し、土壌汚染を含む外部流失への対策を実施しています。毎月1回は保管状況の巡視・監視を展開し、内部環境監査でも現地確認を実施して第三者によるチェックも行いました。



PCB 保管状況

法令順守・グリーン購入

法令順守

環境法規制及び県条例、市条例等について、順守されているか定期的に確認を行っています。主な法規制は下表の通りです。監視測定としてボイラ排気からの大気測定、最終排水口からの水質測定を定期的に行っています。また、産業廃棄物の保管場所の表示、収集運搬・処分業者一覧の確認を行いました。

法令	順守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	○
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法	○
水質汚濁防止法	○
下水道法	△*
浄化槽法	○
大気汚染防止法	○
悪臭防止法	○
騒音規制法	○
振動規制法	○
エネルギーの使用の合理化に関する法律	○
地球温暖化対策の推進に関する法律	○
工業用水法	○
労働安全衛生法	○
毒物及び劇物取締法	○
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律	○
高圧ガス保安法	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律	○
消防法	○
土壌汚染対策法	○
資源の有効な利用の促進に関する法律	○
特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律	○
愛知県・岐阜県条例（環境基本条例、廃棄物の適正な処理の促進に関する条例など）	○
名古屋市・春日井市・日進市・可児市条例（廃棄物の減量及び適正処理に関する条例など）	○

*10月に八事キャンパスにおいてpHの規制値超過が、11月に天白キャンパスにおいてベンゼンの規制値超過が検出されました。調査の結果、実験用流し台から薬品を流した可能性が大きいことがわかりました。全職員に対し処理方法を再度周知するとともに、学生に対しても指導を徹底し、その後の排水質検査において正常であることを確認しました。

グリーン購入

本学ではグリーン購入法に基づき、製品の購入、調達(リース・レンタル含む)時に環境負荷の少ない製品等を優先的に購入することをグリーン購入手順書で定めています。基本的な考え方としては、購入する前に購入の必要性や在庫数の把握、使用方法や使用量の見直し等により、適正量の購入を図り、購入に際しては環境に配慮した製品等を優先して選択し、使用に際しては出来る限り長期の使用又は再使用による有効利用に努めています。



環境教育

環境科目一覧

名城大学では様々な環境に関する科目を設置し、環境教育を行っています。これらは2011年度に開講された科目です。学部ごとに掲載します。

理工学部

- 快適性創造学
- 環境アセスメント
- 環境デザイン図法
- 環境と社会
- 環境リモートセンシング
- 環境気象学
- 環境共生都市論
- 環境経済学
- 環境材料学
- 環境創造学実験
- 環境創造設備学
- 環境造形学
- 環境測量学
- 環境測量学実習
- 環境文化論
- 環境法
- 環境倫理
- 基礎環境創造学
- 気圏環境学
- 技術者倫理
- 居住環境設計
- 景観美学
- 建設材料リサイクル
- 建築環境デザイン
- 建築環境概論
- 建築環境工学
- 建築環境実験
- 建築環境物理
- 交通環境工学
- 材料リサイクル
- 水域環境創造学
- 水環境学
- 水質処理学
- 生活環境論
- 地殻変動学
- 地圏環境学
- 地圏環境変遷学
- 都市環境設計
- 化学2

薬学部

- 薬学入門Ⅰ
- 衛生化学Ⅰ
- 感染予防学
- 公衆衛生学
- 薬学入門Ⅱ
- 環境科学
- 衛生化学Ⅱ
- 臨床微生物学

都市情報学部

- 地域学
- 都市のデザイン
- 防災とまちづくり
- 水利用の計画
- 水環境とまちづくり
- 都市の環境
- 環境の政策
- 環境の評価
- 都市と生態環境
- 地域環境の保全

農学部

- 生物資源学概説
- 動物分類・形態学
- 食用作物学
- 基礎昆虫学
- 生物資源学実験
- 農業環境微生物学
- 熱帯農業論
- 作物学実験
- 園芸学実験
- 遺伝育種学実験
- 植物病理学実験
- 昆虫学実験
- 応用生物化学概説
- 食物文化論
- 機器分析化学
- 食品化学総論
- 応用生物化学実験Ⅰ～Ⅳ
- 農薬化学Ⅰ
- 生物制御化学Ⅰ
- 食品衛生学
- 公衆衛生学
- 応用生物化学実験Ⅴ～Ⅶ
- 生物環境科学概説
- 生物環境実習
- 環境分析化学
- 緑地環境学
- 物質循環論
- 環境微生物学
- 生態学
- 環境動物学
- 植物機能科学
- 植物保全生態学

人間学部

- 環境人間学
- 環境社会学
- 都市文明史

経営学部

- 環境経済論Ⅰ
- 環境経営論
- 地球環境政策論
- 環境経済論Ⅱ
- 地域環境政策論
- (特) 環境会計論

経済学部

- 環境経済論
- 地球環境政策論
- 環境監査論
- 地域環境政策論
- 環境経済論Ⅱ

法学部

- 環境法

共通科目

- 人間と環境

第10回ISOフォーラムの開催



ISOフォーラムの様子

環境対策専門委員会が主催する「第10回ISOフォーラム」を12月3日、天白キャンパスの共通講義棟北内の名城ホールで開催し、約300名の学生が参加しました。ISOフォーラムは2001年9月に開学75周年記念事業の一つとして第1回の開催をして以来、環境に関わる教育活動の一環として毎年開催しています。2011年度は記念すべき第10回であることを踏まえ、今までの名城大学の環境活動を振り返るとともに、今後の環境活動について考えるため「大学の環境活動で学んだこと～これからの環境活動へ～」がテーマとなりました。

都市情報学部の柄谷友香准教授による総司会で、施設部環境グループの渡邊智哉主事と千葉大学環境ISO学生委員会西千葉地区委員長の鈴木富美子さんが、それぞれの大学の環境活動について発表しました。鈴木さんは「千葉大学における環境マネジメントは学生主体であり、ISO14001を運用している環境ISO学生委員会は2009年4月にNPO法人格を取得しました」と先進的な活動内容を紹介しました。参加学生からは「NPO法人にまで発展させた力と熱意がすごい」「学生一人ひとりの環境意識が高い。見習いたいと思う」などの感想が聞かれ、本学学生の刺激となりました。次に、本学ボランティア協議会環境ボランティア代表の吉田大気さん(経済学部)より「ボランティア協議会における環境活動への取り組み」を発表し、学生による環境に関するボランティア活動を紹介しました。最後に、小林明彦副学長から、自身の専門分野である機械加工分野で摩擦や潤滑などのメカニズムを扱うトライボロジーを例に、自動車内外部の摩擦を少なくすることで消費エネルギーの低減が図れることなど、環境保全の視点に基づいた公演を行いました。フォーラム閉会後は発表者による情報交換が行われました。

名城大学 ISO14001 フォーラムのあしどり

- | | | | |
|-----|--|------|--|
| 第1回 | 2001年開学75周年フォーラム
日程:平成13年9月21日(金) | 第6回 | ISO14001フォーラム
—基調報告と映画上映—
日程:平成19年12月8日(土) |
| 第2回 | 認証取得記念/フォーラム
日程:平成14年12月14日(土) | 第7回 | ISO14001フォーラム
「地球温暖化問題」
—現在の産業界の取り組みと我々のすべきことは?—
日程:平成20年12月4日(木) |
| 第3回 | フォーラム
環境マネジメントシステムの継続的な改善に向けて
—学生・教職員の立場から—
日程:平成15年12月13日(土) | 第8回 | ISO14001フォーラム
「生物多様性と環境保全」
日程:平成21年12月5日(土)13:10~15:40 |
| 第4回 | 環境マネジメントシステムの継続的な改善に向けて
—認証取得3年を経過して—
特別講演「環境と法」
日程:平成17年4月23日(土) | 第9回 | ISO14001フォーラム
「大学と企業における環境への取り組み」
日程:平成22年12月4日(土)13:10~15:00 |
| 第5回 | 環境マネジメントシステムの継続的な改善に向けて
—エネルギートーク in 名城大学—
日程:平成18年6月24日(土) | 第10回 | ISO14001フォーラム
「大学環境活動で学んだこと～これからの環境活動へ～」
日程:平成23年12月3日(土)13:10~16:00 |



薬学部の夏休み高校生体験実験

薬学部において、7月23日と24日、「高校生体験実験講習会」を開催しました。本講習会は夏休み中の高校生を対象に毎年開催しており、2011年度は「毎日の生活と放射線のかかわり～見てみよう、測ってみよう、あなたのまわりの放射線～」、「注射薬をまぜてみよう!～注射薬の配合変化とその予測～」のテーマで行いました。両日とも50人近くの高校生のほか、保護者や高校教員も参加しました。

高橋郁子教務技師(放射線取扱責任者)が、放射能・放射線についての基礎知識を解説した後、7号館3階実験室で、エチルアルコール、ドライアイスで人工的に霧を作り、線源のウラン鉱から飛散される放射線の飛跡を観察する「霧箱実験」を実施しました。高校生は霧箱をのぞきこみながら、線香花火のような放射線の飛跡の様子に驚きの声をあげ、興味を持って参加していました。高橋教務技師は、「これをきっかけに放射線、放射能に対して正しい知識をもってもらえれば」と話していました。

この体験実験の様子は、東海テレビ、CBCの2社から取材を受け、紹介されました。



体験実験の様子

タイでの夏期スタディツアー



植林体験の様子

国際交流センターでは、8月21～28日の日程でタイスタディツアーを実施しました。今回のプログラムは、タイの東北部ランパーン県での植林体験及び象保護センターの訪問、バンコク近郊のオイル工場及びタイ政府研究機関BIOTECの訪問、本学の海外協定校であるチェンマイ大学及びチュラロンコン大学での学生交流など、体験・見学・交流を組み合わせたもので、国際交流センターが企画した初めてのスタディツアーです。

全学部から16人の参加希望があり、引率の教職員と合わせて19人が渡航しました。今回のプログラムの中の植林体験は、2008年8月に

附属高校がSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の一環で実施した植林活動であり、現地に生まれた「名城の森」をさらに豊かにするために、国際交流センターが海外渡航プログラムの一つとして受け継いだものです。附属高校生が2008年に植林したものは、3年が経過した現在、約2mの高さにまで成長していました。今回参加した学生は、自分が植林した苗木の成長を確認するために、将来、もう一度現地を訪れる楽しみがあると話していました。

内部環境監査員養成研修

2011年度の内部環境監査員養成研修を、8月24日、25日の2日間にかけて実施しました。

内部環境監査実施に向け、23人の教職員が研修に参加しました。講義の1つである模擬現場監査では、本番さながらにするどい質問が飛び交い、緊張感のあるロールプレーとなりました。研修の講師から受講者のレベルが高いと評価を頂きました。受講者からも名城大学の環境マネジメントシステムに対する理解が深まったとの声が多く聞かれました。



研修の様子

環境に関する研究

附属農場で地産・地消新エネルギー実用化実証研究がスタート

本学農学研究科(研究代表者:田村廣人教授)は、太陽工業株式会社(大阪市)との共同で本学附属農場にて「再生可能な地産・地消新エネルギーシステム(以下、GETシステム)」の実用化に向けた実証研究をスタートさせました。

この研究(文部科学省支援事業)は、田村教授らが3年後の実用化を目指しているGETシステムを導入し、収穫後の休閑期水田に微粉碎した水田放置稲ワラを投入し再生可能エネルギー資源として利用することで、従来、温室効果ガス削減のため発生抑制が常識だったメタンガスを大量産出。これを地産・地消新エネルギーとして有効活用を目指すものです。田村教授らはGETシステムの①実用化により1haの水田から民家2,3軒分のエネルギーの創出、②国内普及により国内農業分野における年間CO₂排出量の約40%削減(目標)、高品質・低コスト・省化学肥料農産物の生産による国内農業の国際競争力強化などが見込まれるとしています。

12月9日には附属農場にてメディア向け現地説明会を開催し、研究内容はCBCや中日新聞など多くのメディアで紹介されました。



取材を受ける田村廣人教授

総合研究所グリーンバイオテクノロジー国際研究センターがシンポジウムを開催



10/1のシンポジウムの様子

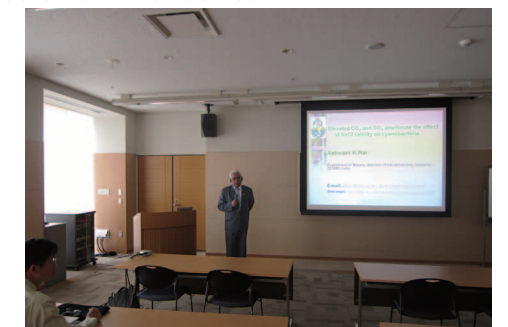
10月1日、タワー75・15階レセプションホールで、総合研究所グリーンバイオテクノロジー国際研究センター(研究代表者 高倍昭洋教授)主催のシンポジウムを開催しました。

同センターは2011年7月に発足し、今回が最初のシンポジウムとなりました。今回のテーマは、「鉄を利用した海洋環境修復の現状と課題」であり、総合学術研究科の鈴木輝明特任教授、新日本製鐵株式会社の中川雅夫部長、国土環境研究所の畑恭子主任研究員、新日本製鐵株式会社の植木知佳研究員、国土交通省の神谷一弘課長から報告がありました。企業研究者、教員・学生、約70人が参加し、鉄の再利用技術の開発によって、海

洋環境の修復にどのようなことが期待されるかについて活発に討論され、盛況のうちに終了しました。

また、同センターでは10月20日、タワー75のレセプションホールで「グリーンバイオテクノロジーに関する国際研究シンポジウム」を開催しました。シンポジウムでは、海外の研究者5名、日本の研究者8名から発表がありました。そのうち4件(タイのチュラロンコン大学1件、名城大学3件)は大学院生による発表でした。インドのバナナスヒンズー大学のAK Rai教授は日本学術振興会の2国間協定等による研究者交流事業で名城大学を訪問しており、ラン藻の耐塩性に関する発表を行いました。また、協定校であるBIOTECのCha-um S博士はオイルパームについて、チュラロンコン大学のSirisattha博士は植物のアミノペプチダーゼについて講演しました。

シンポジウムには約30人が参加し、今後のこの分野の研究の進展とメンバーの共同研究の促進を誓って閉会しました。



10/20のシンポジウムの様子



環境活動

天白キャンパスが「なごや環境活動賞」を受賞



表彰を受ける伊藤政博教授（中央）と施設部福井博泰課長（右）



事例発表を行う施設部 渡邊智哉主事



木製で出来た賞状

名古屋市による「第1回なごや環境活動賞」の優秀エコ事業所部門で、本学天白キャンパスが優秀賞に選ばれ、表彰されました。私立大学の受賞は本学が初めてとなります。

名古屋市では環境に配慮した取り組みを自主的かつ積極的に実施している市内の事業所を「エコ事業所」として認定、支援しています。2011年11月現在で9業種1333の事業所が認定されていますが、その中でも特に優秀で他の模範となる取り組みを実施している事業所は、2007年から「エコ事業所優秀賞」として表彰されています。この表彰制度が2011年度から「なごや環境活動賞」と改められ、「環境首都づくり貢献部門」「優秀エコ事業所部門」「特別賞」が設けられました。本学天白キャンパスはその中の「優秀エコ事業所部門」に選ばれました。

天白キャンパスは2008年3月にエコ事業所として認定されていますが、今回、校舎に太陽光発電やクールピット（地中の熱を取り出すための空気の通り道）を導入している点や、キャンドルナイト等の環境イベント実施、教職員と学生による節電パトロール・清掃活動の実施など、学生を巻き込んだ形でさまざまな環境配慮活動を実施していること等が評価されたものです。

今後とも、「エコ事業所優秀賞」の受賞を追い風に、環境配慮活動を推進していきます。

環境学生ワーキングの取り組み

本学では、環境学生ワーキンググループの活動を行なっています。環境学生ワーキンググループとは、本学天白キャンパスにおける各学生団体（体育会、文化会、理工学部自治会、農学部学生会、ボランティア協議会、生協学生委員会）から選出された学生と学内常駐清掃業者（2社）及び施設部環境グループによって構成しているワーキンググループであり、大学の環境配慮活動について議論し、実施しています。

ワーキンググループの会議は、夏休み・春休みを除く毎月1回開催しており、2007年5月を第1回とし、2011年度の最終回では51回目を数えました。2011年度は9回開催しました。

会議では各学生団体等からの報告を元に活発な議論が行われ、その内容については、各活動団体へ持ち帰り周知されます。会議で計画された環境活動を実施する際は、各活動団体から毎回多くのメンバーが出席をします。

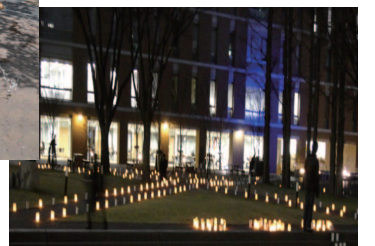


環境パトロールの様子

活動内容	2011年度 活動日
クリーンアップを重点に環境パトロールの実施	4月22日 5月27日 10月13日 10月24日
省エネルギーを重点に環境パトロールの実施	7月14日
エネルギー施設見学会を実施	6月23日
「打ち水大作戦 in 名城」	7月14日
食堂業者からの廃油でキャンドルを作成	12月6日
「キャンドルナイト・イン・名城」を開催	12月22日



打ち水大作戦

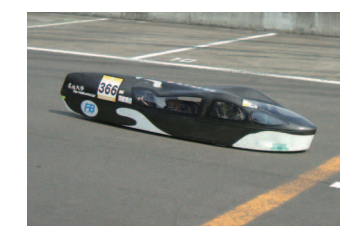


キャンドルナイト・イン・名城

エコノパワークラブによる省エネカーレース出場（鈴鹿大会優勝、全国大会準優勝の快挙）



表彰台に立つ名城大学学生



準優勝した車両 MEGV-2004 号

6月18日、三重県の鈴鹿サーキットで「Hondaエコマイレージチャレンジ2011第25回鈴鹿大会」が開催され、名城大学エコノパワークラブの省エネカーが2台出場しました。雨天の中、滑りやすい路面状況で1台が高速スピンを起しましたが、コース上でたて直し、2台とも完走。エコノパワークラブが大学チームでの1位、2位を獲得しました。エコノパワークラブは本学準強化クラブに認定されており、同クラブにとって認定後初の快挙でした。

また、10月8、9日、「本田宗一郎杯 Hondaエコマイレージ2011第31回全国大会」が栃木県茂木町のツインリンクもてぎレース場で開催されました。名城大学エコノパワークラブの省エネカーは1リットルのガソリンで1904.885km走行の成績を達成し、大学の部（大学、高専、短大、専門学校）に出場した95チーム中の準優勝を獲得しました。

2010年度は1656.807kmを走行して優勝しましたが、年々技術レベルが向上しています。準強化クラブの認定の後押しもあり、部員たちは次のレースに向けての燃費向上の研鑽を積んでいます。



打ち水大作戦の初開催



打ち水を行う学生たち

7月14日、朝8時30分から天白キャンパスの共通講義棟(南)前で、省エネ・省資源活動の一環として『打ち水大作戦in名城』が行われました。この「打ち水大作戦」とは、江戸時代から伝わる打ち水の効果を科学的に検証しようと2003年から始まった全国規模の社会実験で、本学は今回が初参加となります。

当日は、中根敏晴学長を始め、学生、教職員及び学内の施設設備の管理業務を行う委託業者など関係者約120人の参加がありました。

使用された水は、雨水を利用したタワー75の雑用水で、学長の挨拶、注意事項の説明の後、参加者の手により、12分程でエリア内に満遍なくまかれました。

また、理工学部建設システム工学科の原田守博教授と同研究室により、打ち水を行ったエリアの気温の変化が測定されました。打ち水を行う前に気温は35℃近くありましたが、始まるとみるみるうちに下がり、計測に使用した温度計の一番低い温度は31.8℃をマークし、通学途中の学生からも「涼しい!」などと歓声があがりました。

キャンドルナイト・イン・名城の開催

冬至の12月22日、3回目となる「キャンドルナイト・イン・名城」が、環境対策専門委員会、環境学生ワーキンググループが中心となり天白キャンパス共通講義棟(南)前の広場にて開催されました。

省エネや地球温暖化防止とともに、東日本大震災の復興への思いを込め、当日午後4時半からメンバー30人が550個のキャンドルに点火しました。その内100個は、今年は初めて、食堂から出た廃油を再利用した手作りキャンドルで、広場の階段にツリー状に並べられました。また、牛乳の紙パックから「東北」「がんばれ」といった文字を刻んだ灯籠も置き、被災地の復興を願いました。

クリスマスソングをバックミュージックに光り輝くキャンドルを目にした学生からは「きれい」「すごい」などの歓声があがりました。



キャンドルナイトの様子

「昼も。夜も。節電ライトダウン2011」に参加

夏至(6月22日)と七夕(7月7日)の夜20:00~22:00の2時間看板、サイン、街灯を消して、ライトダウンを実施しました。2日間で削減電力は、天白キャンパスで3.20kWh、八事キャンパス2.40kWhとなりました。

社会貢献活動

都市情報学部クリーンアップキャンペーンを実施

恒例になった都市情報学部の「クリーンアップキャンペーン」が6月30日に実施されました。当日は各地で今夏最高気温が記録される猛暑の中、名鉄西可児駅までの通学路を、名城大学ローターアクトクラブを中心とした学生、教職員、地域の虹ヶ丘自治会から約80人が参加し、清掃活動に汗を流しました。

この催しは、春と秋の年に2回、通学路の美化と環境への関心向上を目的に行われており、都市情報の学生、教職員だけでなく、虹ヶ丘自治会の協力も得て、住みよいまちづくりにつながることを目指しています。参加した学生たちは「ゴミが思ったより少ない」と言いながらも細かい吸い殻などを丁寧に拾っていました。



クリーンアップの様子

農学部附属農場で収穫祭を開催一実りの秋を実感一

10月15日、農学部附属農場で収穫祭が開催され、小雨が降るなか、地域の家族連れ、在学生、教職員など約250人が参加しました。開催に先立ち、大場正春学部長は「あいにくの天候ですが、自然の恵みを満喫してください」とあいさつしました。その後、参加者は農場職員から稲の刈り方や束ね方を教わりながら、2枚の田んぼに実った稲を刈り、それぞれが収穫を楽しみました。また、稲刈り終了後には農場特製の豚汁などが参加者に振る舞われ、収穫作業後もあつた、とてもおいしそうに頼張っていました。

家族連れの中には、おじいさんと一緒に仲良く稲を刈るお孫さんの姿も見られ、普段あまり体験できない稲刈りを通じて特別な一日になりました。



収穫祭の様子



附属農場でオープンファームを開催

11月12日、農学部は春日井市の農学部附属農場においてオープンファームを開催しました。当日は前日までの雨模様とは違って変わり、青空の暖かな陽差しの中、昨年を上回る500人を超える方々が来場しました。

今年で6回目となる同イベントは、農産物販売、農場散策・見学、稲刈り体験、里芋掘り体験、園芸教室、トレーラーでの農場遊覧、家畜展示、農業機械展示など、「農」に触れ合える楽しい企画が多数あり、毎年多くの方が来場し、好評を得ています。

稲刈り体験や里芋掘り体験では多くの親子連れが参加し、慣れない手つきで一生懸命に鎌やスコップをふるい、収穫すると大歓声をあげていました。トレーラーで農場内を一周する農場遊覧も家族連れに大人気で、常に順番待ちの列ができる盛況ぶりでした。

また、毎年恒例の農産物販売では、農場で生産した野菜、果物、花、米、卵などを目当てに販売開始前から来場者が列を作り、多くの買い物客でにぎわっていました。参加者は、いろいろな企画を楽しみ、子供から大人まで農場で一日を満喫していました。



里芋掘り体験の様子



農産物販売の様子

環境デーなごや2011事業「親と子の環境科学実験教室」開催

6月5日、天白キャンパス共通講義棟北N005教室において、総合数理教育センターが天白生涯学習センターとの共催で「親と子の環境科学実験教室」を開催しました。

親子29組、58人の参加があり、環境デーなごや2011事業にふさわしく、リサイクルされるプラスチック資源について理解を深め、3R(リデュース・リユース・リサイクル)を身近に感じる体験ができました。前半は、空き缶で綿菓子機をつくり、その綿菓子機を利用しペットボトルから繊維を作りました。後半は、家庭にある様々なプラスチックを持ちより、プラスチック素材の種類について、実験を交えクイズ形式で学びました。

参加者からは、「楽しかった」「プラスチックといってもいろいろな種類がありびっくりしました」「ビニール、プラスチックごみを分ける必要があるのがよくわかった」などの意見・感想が多数寄せられました。

なお、今年度から「サイエンス・ボランティア入門I」の一環として、市民に科学教育の大切さを伝える人材育成を兼ね、本学学生10人が実験の補助をしました。実験運営の難しさを学ぶとともに、市民のとの交流を通じて、サイエンス・ボランティアの大切さを学習しました。



実験の様子

労働安全衛生の取り組み

労働安全衛生の管理体制

本学では労働安全衛生法に基づき、安全衛生管理体制を構築し運用しています。

働きやすい、学びやすい環境づくりのため、定期的な安全衛生委員会の開催と共に、産業界と衛生管理者による職場巡視によって、大学内の事故や災害の原因となりうる危険箇所を特定・把握し、改善に努めています。

天白キャンパスで「環境・防災フォーラム2011」を開催

愛知県私立大学環境問題懇談会による「環境・防災フォーラム2011」が11月16日に名城大学天白キャンパスで開催されました。愛知県私立大学環境問題懇談会

は、県内の全ての私立大学が連携して地球環境の保全を実現するため、意見交換・情報交換する場として発足しました。名城大学は、幹事校として、発足時から企画運営に携わっています。

2011年度は、本学が事務局担当校となり、自然災害と防災に関するフォーラムを開催しました。当日は加盟大学の学生や教職員、一般から約100名の参加がありました。講演会において、本学からは総括環境管理責任者である理工学部環境創造学科伊藤政博教授より、津波のメカニズムや、東日本の復旧・復興における課題について講演しました。また、本学のボランティア協議会・災害復興ボランティア代表の仲谷明都さん(法学部)が被災地の気仙沼大島で行った救援活動について報告しました。講演会終了後の交流会では、非常食の試食、BCP視点からの防災対策に関する説明会が行われました。講演会と交流会を通じ防災意識の向上が図られ、大学間の防災ネットワーク構築の一步が踏み出されました。



フォーラムの様子

防災への対応

中部地方では南海トラフ巨大地震等が想定され、本学としても、様々な対策を検討・実施しています。ハード面では耐震補強と設備などの転倒防止措置、ソフト面では、地震に関する情報、行動要領の習得、さらには非常持出品の準備等を実施しています。また、地域との連携した対策も進めています。

本学は必要と思われる校舎について、耐震補強工事を実施しており、天白・八事キャンパスにおいては、2012年度中に什器に対する転倒防止金具の取付工事を終了する予定です。今後他キャンパスなどについても実施していく予定です。

さらに、地震発生時の行動・対応要領などを記した学生用防災ポケットブック(仮称)の作成、備蓄品の確保、災害に対応できる自衛消防力の強化など、災害に対応できる体制づくりに努めるとともに、地域に対し体育館を避難所として提供したり、ボランティア団体の支援などを行う協定を締結するなど、地域との連携も図っています。

災害がいつ起こるか予測は難しい中、本学としても何が必要とされており、何をしなければならないのかを常に考えていかなければならないと感じています。今後とも減災に向け継続した取り組みを実施し、さらに安心・安全で快適な名城大学を目指していきます。



我々の活動が自然環境にどのような影響を与えているか正確に知ることが必要です。

総括環境管理責任者
理工学部 環境創造学科
伊藤 政博 教授

2011年3月11日、14時46分に三陸沖を震源とする国内観測史上最大、千年に一度と言われるMw9.0の地震（東北地方太平洋沖地震）が発生し、この地震による巨大津波が青森、岩手、宮城、福島、茨城県及び日本各地の海岸に打ち寄せ、多くの港湾海岸の施設を破壊して内陸部へ侵入し、2万人に及ぶ尊い人命を奪い、市町村の家屋、生産施設、鉄道などの社会基盤施設に壊滅的な被害を与えました。さらに、この津波によって福島第一原子力発電所では、原子炉が異常停止したために世界でも例のない事故（メルトダウン・スルー）が起こり、電力供給のみならず放射能による汚染による著しい影響が、今も出ています。

これまで、わが国はとするとエネルギー（電気）を気兼ねなく使うことが、近代的で先進的な生活であり、経済・社会の活動を表すステータスである、としていた一面がありました。日本では、全電力量の約30%が原子力（19基の原子炉が現在運転中*2012.1末現在）でまかなわれています。電力使用量を1日の時間で考えると、約6時間分が原子力によるものです。福島第一原子力発電所で起きた一連の事故以来、原発の存続・停止・廃止が政治、社会、さらにマスコミを賑わしているところ です。多くの人は、非常に危険きわまりない魔法の火（核分裂エネルギー）で起こされている“電力”を知らずに使っていたようです。よく引き合いに出される太陽光発電は太陽が照っている時、また風力は強い風がコンスタントに吹いている時、のみ安定な電力が得られるのです。今後、原子力に変わる代替エネルギーの開発と実用化には、恐らく数十年以上の歳月がかかるでしょう。毎年のように起るであろう猛暑を凌ぎ、快適な生活レベルを保ち、生産活動を止めることなく経済・社会活動を持続するには、総ての人がエネルギーの使用に強い関心を持ち、従前の認識と行動を大きく切り替えなければならないでしょう。

天白キャンパス、八事キャンパス、可児キャンパス及び鷹来キャンパスでは、16,000余名の院生含む学生の教育と研究及び支援活動が行われています。この活動が地球の自然環境にどのような影響（プラスとマイナス）を与えているかについて、正確に知ることが必要です。無駄のない最適なエネルギー使用及び省資源などの低炭素活動を目指すことが、わが国の脱原発の第一歩であると言えます。

10年前、時代に先駆けて本学は、教育機関として環境に対する配慮の重要性を強く意識し、2002年6月13日に環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001を認証取得し、環境方針に基づいて①環境教育（環境に係わる教育活動の推進）、②環境関連研究（環境に係わる研究活動の推進及び研究成果の公開）、③省資源の推進、④省エネルギーの推進、⑤グリーン購入の推進、⑥一般廃棄物の及び産業廃棄物の適正管理、の6本柱をPlan-Do-Check-Actionで、スパイラル的に向上させています。この環境活動は外部機関により定期的にチェックが行なわれ、2005年6月13日、2008年6月13日、2011年6月13日と3回の更新を果たし、10年の歳月を経ました。

この環境報告書には、名城大学における環境方針のもとで、環境の6本柱に沿って行っている活動の結果とその評価がまとめてあります。今後展開される環境活動は、逐次大学のホームページ<http://www.meijo-u.ac.jp/kankyo/index.html>で公開しています。

この報告書は、環境省発行の「環境報告ガイドライン（2012年版）」に基づき作成しています。ガイドライン項目と記載ページの一覧を下表に示します。

記載する情報・指標	記載ページ
基本的事項	
1. 報告にあたっての基本的要件	
(1) 対象組織の範囲・対象期間	1
(2) 対象範囲の捕捉率と対象期間の差異	—
(3) 報告方針	1
(4) 公表媒体の方針等	1
2. 経営責任者の緒言	2
3. 環境報告の概要	
(1) 環境配慮経営等の概要	3～6
(2) KPI の時系列一覧	11～16
(3) 個別の環境課題に関する対応総括	11、12
4. マテリアルバランス	10
環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況	
1. 環境配慮の方針、ビジョン及び事業戦略等	
(1) 環境配慮の方針	7
(2) 重要な課題、ビジョン及び事業戦略等	11、12
2. 組織体制及びガバナンスの状況	
(1) 環境配慮経営の組織体制等	8
(2) 環境リスクマネジメント体制	28
(3) 環境に関する規制等の遵守状況	18
3. ステークホルダーへの対応の状況	
(1) ステークホルダーへの対応	27
(2) 環境に関する社会貢献活動等	23～27
4. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況	
(1) バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針、戦略等	—
(2) グリーン購入・調達	18
(3) 環境負荷低減に資する製品・サービス等	19～22
(4) 環境関連の新技术・研究開発	22
(5) 環境に配慮した輸送	—
(6) 環境に配慮した資源・不動産開発 / 投資等	—
(7) 環境に配慮した廃棄物処理 / リサイクル	16

記載する情報・指標	記載ページ
事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組に関する状況	
1. 資源・エネルギーの投入状況	
(1) 総エネルギー投入量及びその低減対策	10、14
(2) 総物質投入量及びその低減対策	10、15
(3) 水資源投入量及びその低減対策	10、15
2. 資源等の循環的利用の状況	15
3. 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況	
(1) 総製品生産量又は総商品販売量等	—
(2) 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	10、13
(3) 総排水量及びその低減対策	10、15
(4) 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	18
(5) 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	17
(6) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	10、16
(7) 有害物質等の漏出量及びその防止対策	17
4. 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	21
環境配慮経営の経済・社会的側面に関する状況	
1. 環境配慮経営の経済的側面に関する状況	
(1) 事業者における経済的側面の状況	—
(2) 社会における経済的側面の状況	—
2. 環境配慮経営の社会的側面に関する状況	28
その他の記載事項等	
1. 後発事象等	—
2. 環境情報の第三者審査等	—

名城大学 環境報告書

2012 Ver.2

MEIJO UNIVERSITY ENVIRONMENTAL REPORT 2012



発行 名城大学 経営本部 施設部
住所 〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501
TEL 代表 052-832-1151(内線2169、2161)
ダイヤルイン 052-838-2011
FAX 052-833-5523
URL <http://www.meijo-u.ac.jp/>
E-Mail ookankyo@ccmails.meijo-u.ac.jp



このロゴはなごや環境活動
賞を受賞した事務所に付与
されるロゴです。



2013.4.1